

【コースの概要】

本校は、平成24年に東京都内の女子高等学校では初めてのスーパーサイエンスハイスクール(SSH)として文部科学省から指定を受けて以来6年間その研究プロジェクトを推進し、生徒の論理思考を高めるための授業改革や探究力向上に繋がる実験手法におけるスキルアップや最新の科学研究技法を学ぶ機会を持つことで意識の高い女性研究者育成を推進してきました。その探究に関わる手法は来る2020年の入試改革にも対応するものとして、これからは本校のコース制の中で、より成長できるように努力を重ねて参ります。

平成27年度より導入されたコース制で学ぶ生徒を卒業生として今年度初めて送り出しましたが、コース制の定着とともに生徒の描く将来像もより理工系色を深め、女性研究者としての資質を高めた成果が、生徒一人一人の将来に結びつくものになってきました。この理工系大学への進学希望者の増加は、まさに本校のコース制下での理数教育の成果と捉えています。更に今後も本校独自のAdvanced Science/理数キャリアコースの教育活動が展開されるわけですが、これまでその関係性を深めてきた国際的な科学研究上の連携関係(タイ国との研究交流)やSSH指定校との研究交流もSSH指定下と同様に継続して行きます。東京都SSH校との研究交流会および関東近県SSH校との研究交流は、生徒たちの大切な教育機会として生かしながら、グローバル社会に適応した国際性を持ち、問題解決に必要な探究力を備えた生徒の育成に取り組んでいきます。

中学では、高校で推進してきたSSHのカリキュラム開発に繋がるJr. SSHプロジェクトを展開してきましたが、今後もその中で育ててきた探究力育成プロジェクトを文京ジュニアサイエンスプロジェクトと改名して、継続および発展的な課題設定を持ちながら、教育活動を進めていきます。これもコース制下で進めてきた、中学1年生のファンデーションプログラムや2年生以降のコース別学習における「科学塾」や「探究の技法」の学びの中で、将来に必要な研究力の基礎を固めます。

本校の教育は、6か年の一貫教育でも、3か年の高等部の教育でも系統立ったカリキュラム構成と独自のサイエンスプログラムにより、生徒一人一人が教科横断型の思考力を備え、多面的に物事を考察するようになり、成長とともに段階的に本格的なサイエンティフィックメソッドに基づいた研究活動に取り組むようになります。その過程では、課題発見の視点やアプローチの方法、具体的な実験手続きを学び、それらを基に、各自の科学的疑問から発した課題研究を行い、発表までの活動を難なくこなし、国際的な研究発表の場でも堂々と発表できるようになります。実際に毎年そのような卒業生を送り出し、その卒業生に習う後輩たちが研究を引き継ぎ、次の世界的研究発表の世界へと羽ばたいています。世界で活躍できる女性研究者の育つ場としての役割を本校は担っているのです。

「知識を得るための学習」から「課題解決に必要な力を育てる学習」への意識改革を進め、学習に対する目的意識を明確にすることで、今後迎えることとなる「新学習指導要領」や「高大接続改革」にも対応した教育を推し進めるのが文京学院のAdvanced Science/理数キャリアコースです。(右の写真は今年4月実施のタイ国科学交流団と工学院大学で共同研究を行った際の写真です)



1. コースの探究活動(文女祭で発表予定の各学年の研究テーマ一覧、その他の活動)

本校の探究活動は、その指導を学校独自のカリキュラム開発で生み出した「探究の技法」を主軸において行っています。学年ごとに積み重ねながら、探究の技法を基礎から応用へと発展しながら学んでいきます。中学1年生には探究活動の楽しさを体験しながら、仮説・検証の基礎を学びます。中学2年生では実践的な研究活動を進める上で、視点の広がりを与えて、多面的に物事を考える力を育成します。中学3年生では「探究の技法」を通して身につけた探究力を活かして、グループ研究を進め、完成作品をもとに外部機関との研究交流も行います。

- 中学1年：ファンデーションプログラムで研究の科学的手法(仮説・検証)の基礎を学ぶ

「音階の科学」 ※学年統一テーマで学習中

- 中学2年：「条件を1つだけ変えて、植物の育ち方の違いを研究する」を全体テーマとしてのグループ研究の実施

「ヒマワリの肥料ありと肥料なし」	「キュウリの日向と日陰」	「カボチャの肥料ありと肥料なし」
「プチトマトのミミズ入りとなし」	「ナスの乳酸菌入りとなし」	「ピーマンの肥料ありと肥料なし」
「ヒマワリの日向と日陰」	「エダマメの日向と日陰」	「オクラの日向と日陰」

- 中学3年：4月実施の研修旅行(4/18~4/21実施)と連動して、「京都」をテーマにしたグループ研究の実施

京都の受け継がれる建築工法	和菓子の味は水により変わるのか	燃えやすい家の素材は何か
雑菌に対する葉の抗菌作用について	抹茶の溶けかたと温度の関係	宇治抹茶と日本茶の種類比較
関東と関西の水の比較	生きた菌に対する笹の抗菌作用について	

- 高校1年：SSH課題研究活動で、SSクラブとして研究活動を継続し、研究成果報告会などで発表

クロロゲン酸による緑化	にんにくの緑化	人工イクラ
振ると色が変わる水	尿素の結晶成長	「米粉パン」
トライアングルの音色と振動	消臭実験1	消臭実験2
チョークの実験	食品の化学	トマトの酸化を防ぐ
雪の結晶	ペットボトルロケット	ロボットの歩行
菌・細菌の培養	菌体の接触と融合	梅干の制菌効果
ミドリムシの増殖実験	外反母趾	ヒオウギガイの着色
カタツムリの嗅覚	植物の成長と音との関係	葛と他の植物のカルスの比較
数独を作ろう	暗号理論	シャボン玉の膜

- 高校2年：12月タイ・プリンセスチュラポーンサイエンスハイスクール・ペッチャブリ校とのサイエンスフェアに向けて、グループ研究の実施および英語プレゼンテーションの準備を進める

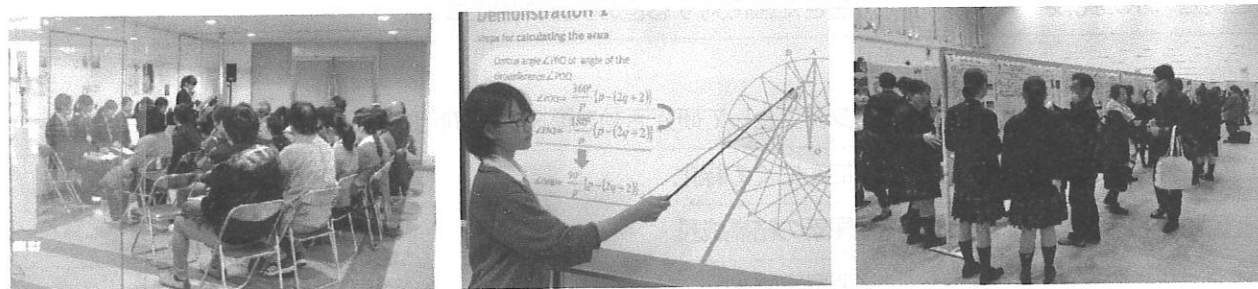
「外反母趾」の研究	「ヨーグルトの保存温度がpHの変化とヨーグルトの発酵へ与える条件」
「強度のあるシャボン玉」	「昆布の粘性による発酵条件の検討」
「コウジ菌同士の反発」	「星型n角形 K点飛ばしにおける面積の一般化」
「昆布の粘性による発酵条件の検討」	「米粉を原料としたパンの発酵条件の検討」
「牛蒡に含まれるクロロゲン酸の抽出量とクロロゲン酸を使った天然着色料の食品への応用および解析」	
「デンプンはアスコルビナーゼによるビタミンCの酸化をどれくらい防ぐのか」	
「デンプンが塩基からビタミンCを守る～塩基性条件下におけるデンプンによるビタミンCの保護効果について～」	

- 高1・2年：科学コンテストへの参加

探究活動する生徒たちの多くは、科学コンテストへ毎年積極的に挑戦中です。これまでのコンテスト参加において最優秀賞受賞を含め、数多くのコンテストで輝かしい成果を残しています。

「過去の受賞例」

- ▶日本水産学会（高校生ポスター部門）最優秀賞・優秀賞受賞
- ▶サイエンスエッジ日本語ポスター部門第1位
- ▶国際形態科学シンポジウム（国際学会）特別ポスター賞
- ▶第3回数理工学コンテスト（論文コンテスト）奨励賞受賞 など



「研究交流会・科学コンテスト参加事例」

- ▶SSH生徒研究発表会
- ▶サイエンスアゴラ
- ▶関東近県SSH合同発表会
- ▶つくばサイエンスEdge
- ▶サイエンスキャッスル
- ▶The 3rd Symposium for Women Researchers
- ▶Kanagawa International Science Forum（英語での発表） など
- ▶科学グランプリ（化学・生物・物理）
- ▶高校生科学技術チャレンジ（JSEC）
- ▶SSH東京都内指定校合同発表会
- ▶女子生徒による科学研究発表交流会
- ▶首都圏オープン生徒研究発表会

2. 今年度これまでに実施したSSHの主な取り組み

- 「タイの連携校との科学交流」 4/19～4/25

本校と教育連携を締結したタイ王国プリンセスチュラポーンサイエンスハイスクール・ペッチャブリ校（PCSHS-P）から生徒12名、教員4名が来校。今年度から両校代表生徒による口頭発表による科学交流を行い、継続実施している交流期間内に行われるサイエンスプロジェクトにおいては、4大学+1研究機関から招聘した大学教授と科学研究系の専門スタッフによる講義や、生徒研究発表など科学・文化交流の場である「サイエンスフェア」が開催されました。交流には本校グローバルコースの生徒もプロジェクト推進に協力する全校体制で受け入れを行っています。学外での交流に関しては、本校と理科教育協定を締結している芝浦工業大学や工学院大学との関連性を大いに活かして、芝浦工業大学では超電導に関する特別講座を開講、大学に在籍する留学生交流の機会も得ました。また工学院大学では、本校のタイ国との共同研究に関連する食品成分（お茶のポリフェノール）の解析実験を行い、先端科学体験の機会を得ることができました。更に日本の先端技術の推進者でもある清水建設の研究所への訪問なども行い、日本国内での限られた時間内での活動をより充実したものにするためのオリジナルプログラムで、両国生徒（本校生徒はタイ国の生徒のバディとして活動を共にしました）は、在日一週間（7日間）を科学満載で過ごすことができました。科学交流プログラムの実施はPCSHS-Pと本校の相互で、今後も本プログラムは継続して行う協定を結んでおり、本校のタイ訪問は年明けの1月を予定しています。

科学教育における社会貢献活動も本校は、地域の小学生親子を対象に「SSラボ」として理科実験教室を実施し、科学好き生徒層の拡充と地域社会とのネットワークづくりを目指しています。ラーニング・バイ・ティーチングの実践として、本校生徒がTAとして児童生徒に教えることで学びを深め、教える楽しさやコミュニケーション力を身につけさせます。連携大学の工学院大学わくわくサイエンス祭りや文京区の文京アカデミアでも同様の活動を展開しました。

- 「H29年度SSH校生徒研究発表会」 8月9日・10日（神戸国際展示場）

全国のSSH校が毎年1回一堂に会し、各校の代表生徒達が自分の研究成果発表を行う大会。本校からは「高校生女子における外反母趾発症率」という研究で、高校2年生2名が参加しました。

3. 環境科学を考える授業や校外学習の実施

- 「ジュニアSSH in 妙高」（中学1年～2年希望者、8/7～8/10、4日間の現地研修、事前事後講座あり）

妙高山のすそ野に位置し、その頂上を見上げる高原に位置する国の科学的研修施設である「国立妙高青少年自然の家」に宿泊し、その地方特有の科学事象を素材にしたフィールドワークを含む、体験的校外研修を毎年実施しています。今年で7年目となります。昨年度は、火山活動によって造られた自然環境を素材に、その研究は火山灰研究に始まり、そば打ち体験や、源流体験、星座観察、現地団体と協力関係を構築して共同で環境保全活動に携わるなど、多岐にわたる貴重な科学的な体験ができる実践的な研修を行いました。



4. 「マレーシア・サイエンス研修旅行」の準備

● 「マレーシア研修旅行」(高校2年生2月23日～28日)

地球科学的に貴重なジオ多様性と、その生態系や地域文化に高い価値があり、世界ジオパークに認定されているマレーシア・ランカウイ島やフリム森林公園研修でのフィールドワークを行います。また、今年度から、現地の女子高との文化交流も実施する予定です。事前にフィールドワークの方法や観察の視点等を教え、現地では熱帯雨林地帯の自然環境を学び、各自の課題についての探求学習を行い、帰国後はレポートを作成し、一連の成果を共有する研修旅行となります。



【コースの概要】

(1)指導目標

- 英語によるコミュニケーション力を基盤として、グローバル社会で活躍する人材を育成する。
- 語学力に加えて、自国の文化・言語に対する深い理解を前提とした文化発信力を高める。

(2)設置趣旨

従来から展開してきた本校独自の国際理解教育・英語教育を基盤に、グローバル人材育成に資する教育を展開して、時代の要請に応える。

また、本校のSGH構想(平成27年度SGHアソシエイト指定)に基づき、

- ①自身の所属するコミュニティの国際社会における位置づけを地球規模でとらえる視野
- ②良質な共生社会を創出する姿勢と企画力
- ③国境や異文化などさまざまな「境界線」を軽やかに越える行動力

を身につけ、日本を含めたアジア地域を主たるフィールドに、探究・思考・議論を通じて鍛えられた発信力をも兼ね備えた女性リーダーを多数輩出することをめざしている。

【平成29年度の活動報告(平成29年4月～平成30年3月)】

1. 英語コミュニケーション能力の育成

異文化理解の第一歩として、国際共通語である英語をコミュニケーションツールとして十分に活用できる能力を育成する。

a. 学校設定科目「Super Global English I～V」

- 中学1～3年(各学年とも週1時間)

平成22年度より週1回導入している「多読」活動では、和訳に頼らずにできるだけ多くの英文に触れる機会を設けている。

単に「読む」というインプットの作業に終始することなく、『Book Diary』に読書記録をつけるほか、あるテーマに基づいて英文を書かせる「多書」活動も段階的に取り入れている。

- 高校1年・高校2年アドバンスαクラス(各学年とも1単位)

放課後の英語特別講座「国際塾」のプログラムから任意の1講座を選択履修させている。長期にわたる海外生活を経験してきた帰国生徒から、中学入学時から本格的に英語の学習を始めた一般生徒まで、生徒の英語コミュニケーション能力は非常に幅広く、一律に同じ内容の授業を行うよりも個々の生徒の学力・ニーズに応じた指導が有効であり、生徒の満足度も高い。

b. 語学研修プログラム

いずれも前期に事前指導を行い、夏期休業中に現地での研修を行った。12月には、中学1・2年の希望者を対象とした「ブリティッシュヒルズ異文化体験プログラム」を実施した。

● 中学3年(Maple BEST)

カナダ西部のヴィクトリアでの11日間にわたるホームステイを中心としたプログラムを実施した。現地では日本文化紹介を行い、日本・カナダ両国の文化や社会を理解するよう努めた。

● 高校1・2年(EIC / UK BEST / Aussie Global 研修旅行)

- ▶ EIC(English Intensive Camp)とは、米国ミネソタ州のセントベネディクト大学を本拠地に、学寮での生活・学内での英語特別講座を通じて、25日間にわたり「英語漬け」の生活を送るプログラム。研修の最終日には全員がパワーポイントを使ったプレゼンテーションを行い、成果を発揮した。
- ▶ UK BESTは、平成29年度より英国ウースターとロンドンでの研修プログラムに変更した。ウースターではホームステイを中心としたプログラムを行ない、ロンドンではロンドン芸術大学で授業を受けた。
- ▶ Aussie Global 研修旅行は、研修旅行(修学旅行)の一コースで、オーストラリアのセントヒルダ高校での交流とホームステイを中心とした約2週間のプログラムである。同高校の授業や行事に参加・見学し、近隣の大学を訪問する機会を設けた。

c. 国際塾

平成22年度開講の英語特別講座。プレゼンテーションなど、正課の授業とは異なるコンセプトのオリジナル講座を展開している。また、各講座の対象学年は明確に定義せず、個々の生徒の学力・ニーズに応じて選択履修できるシステムを採用している。平成27年度からは、英検・TOEICなど検定・資格取得をサポートする講座も開講している。

平成29年度英語検定1級 合格1名

一般社団法人教育支援協議会主催 田崎清忠杯 私立中学校英語レシテーション大会 中学3年生の部4位
上智大学全国高校生英語弁論大会「ジョン・ニッセル杯」 本選出場

2. グローバル社会で生き抜くためのキャリア育成/わが国の文化・言語に対する深い理解

a. 学校設定科目 「探究の技法Ⅰ～Ⅲ」(中学1～3年)

「探究の技法Ⅳ・根源の探究」(高校1年)

「探究の技法Ⅴ」(高校2年スタンダードクラス・アドバンストβクラス)

「探究の技法Ⅴ・Global Design」(高校2年アドバンストαクラス)

「Global Issues」(高校3年アドバンストαクラス)

従来、学活・LHRや総合的な学習の時間で展開してきた、世界各地の人々の暮らしや障がいを持った人との交流など、多様性を知るためのプログラムを再構築し、学年に応じたテーマの課題解決型・探究型学習活動を導入している。いずれも授業や学園祭でポスター・口頭発表を実施する。一部の取り組みについては、12月に実施される「SSH・SGH研究成果報告会」でも発表を行なった。

- 中学1年：探究活動の第一段階として、研究の科学的手法(仮説・検証)の基礎を学び、東京の魅力や不思議を研究した。

「手おけ三味線」	「おせちのお話」	「江戸切り子について」	「ランドセルの魅力」
「男性専用車がない理由」		「なぜ豊洲なのか?～築地市場移転について」	
「同潤会アパート→表参道ヒルズ」		「浅草はなぜ外国人が多いのか」	

- 中学2年：平成29年度のテーマは「受け継ごう。THE WORLD HERITAGE」

地球の記憶とも言うべき自然や文化財を今後も未永く守り続け、次の世代へと大切に残していくことを目的に、世界遺産を正しく理解するための研究を行なった。

ヴィクトリアの滝	ジンバブエ	タージマハル	インド
ブリューージュ歴史地区	ベルギー	イエローストーン国立公園	アメリカ合衆国
マチュピチュ	ペルー	グレートバリアリーフ	オーストラリア
アンコールワット	カンボジア	メキシコ	ベトナム
キエフ聖ソフィア大聖堂	ウクライナ	ハロン湾	パリのセーヌ河畔
フランス	知床	日本	
メキシコシティ歴史地区とソチミルコ			

- 中学3年：関西研修旅行で訪れた、京都のオリジナル観光名所マップを英語で作成し、学園祭で発表した。百人一首の中から、奈良、京都、神戸の地名が入っている和歌を選び、展示発表を行った。

銀閣	金閣	八坂神社	壬生寺
二条城	仁和寺	二年坂、産寧坂	三十三間堂
龍安寺	京都御所	渡月橋	平等院鳳凰
清水寺			

- 高校1年：「根源」「共生」「境界」をキーワードに、各クラス担任の指導・助言のもと課題研究を行った。社会の諸課題について、その根源を考察するとともに解決に向けての糸口を模索した。

「世界の言語」	「日本と海外のLGBTの理解の差」	「世界の食生活」
「マイナーなスポーツ」	「日米のお笑いについて」	「世界と比べる日本の長時間労働」
「世界の調味料」	「絵の東西」	「K-POPの歴史」
「中日の高校生の違い」	「ライスランド」	「外国人受けのいい空港とは」
「フィリピンとジャパニーズの「カゲイシ」	「イーストとウェストとワールドの違い」	「性格と相性」
「食料廃棄量の違い」	「バイオマスエネルギーの大切さ」	「加工食品について」
「先進国と開発途上国の残飯量」	「食料飢餓」	「スイーツのインスタ映えについて」
「なぜジブリの作品の中でも海外に認められた作品と認められなかった作品があるのか」		

●高校2年

他コースとの共通テーマとして、「企業職業研究」を行った。単なる「職業調べ」「職場体験」に終わらず、自らの将来のキャリアを強く意識させるべく、業界・職種研究や企業等の訪問を実施した。多くの生徒は夏休みを利用して各企業・団体を訪問し、学園祭でレポートを展示した。

アドバンスαクラスでは、「企業職業研究」を通して企業や職種に対する基本的概念を得た。その知識を元に、来る東京オリンピックに向けて、オリンピック後にも「持続可能な国際都市東京をつくるべく、様々なインフラやサービスを提供できる組織や活動をデザインした。

【訪問先企業等】

「公益財団法人 日本YWCA」	「株式会社 不二家」	「キリン株式会社」
「モルディブ大使館」	「EF エデュケーション・ファースト・ジャパン株式会社」	

●高校3年

国際教養アドバンスαクラスでは、高1より取り組んでいる課題研究の集大成として「Global Issues」に取り組んだ。世界の諸問題について「持続可能な発展」をテーマに幸福度や世界平和、環境問題等に関する文献を英語で読み、ディスカッションやプレゼンテーションを通して考えを深めた。

b.SGHプロジェクト「アジア研究」(高校1、2年)

東京海洋大学の小松俊明教授との高大連携プログラムであり、同大学の学生もメンターとして参加した。「発展途上国」と括られ、先進国である日本の優位性・先進性が強く意識されがちな東南アジア諸国の「リアルタイムの姿」を学んだ。受講者は年10回程度のゼミに参加し、各自が決めたテーマに従い日本と他のアジア諸国との比較・対照や日本がこれから採るべき方向性についての提言をまとめた。学園祭での中間報告を経て、年度末には論文集を作成した。

今年度の研究テーマ

「日中の精神疾患に関する政策への考察」	「アジア各国のマナーの違い」
「法律の厳格化がもたらす社会への影響への考察」	「日本とマレーシアのゼノフォビアに関する比較研究」
「フィリピンの貧困対策の分析と日本の現状への考察」	「アジアに対する政府開発援助の問題点と解決策への考察」
「中等教育における英語スピーキング能力開発への考察」	「他国による動物への政策から変える日本の現状」
「中国の公害問題に対する日本のODAの現状と課題への考察」	「アジアの貧困対策から考える日本の貧困問題解決への道筋」
「観光立国日本とアジアの新しい交流機会への考察」	「韓国と日本における英語のスピーキング力の違いに関する考察」
「LGBTへの理解が日本人の対人関係の変化に及ぼす影響に関する考察」	

「日本とマレーシアのゼノフォビアに関する比較研究」は「SGH 甲子園」(関西学院大学)にてポスター発表を行った。

c.グローバルスタディーズセミナー(高校1、2年)

グローバル社会の理解や学力の向上を目的とし、8月に5日間(高2は4日間)のセミナーを実施した。英・国・数の学習に加え、高1は公害や食料問題など地球規模で考えなければならぬテーマについて英語で授業を受けた。また、JICA 地球ひろばや外務省、各国大使館などを訪問し、日本や諸外国がこれらの問題についてどのようにアプローチしているのかを学んだ。高2は新しい英語試験 TEAP の対策を行ない、外部講師より海外進学についての講義を受けた。

d.海外大学連携プロジェクト

中学3年グローバル、高校1年国際教養アドバンス、高校3年国際教養アドバンスαの生徒を対象に、ロンドン芸術大学による特別授業を行なった。中学3年生は弁当箱やペットボトルという身の回りによくあるものを用いながら、独創的な発想で作品を作る楽しさを学んだ。高校1年生には大学の紹介とクリエイティブな環境で英語を学ぶ「イングリッシュプラス」の紹介がなされた。高校3年生は、「芸術と Global Issues」をテーマに食糧問題や資源問題などについて各自が独創的なポスターを作り発表した。

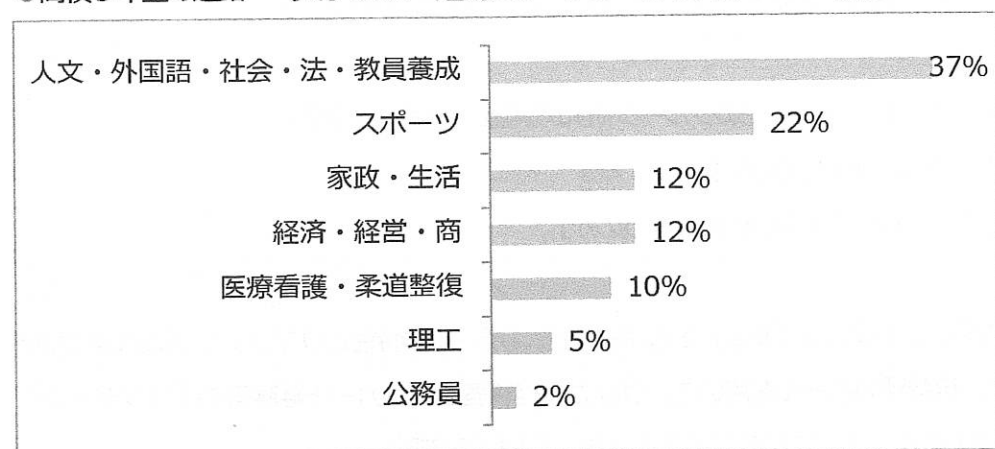
10月28日には、小松教授のご紹介によりアジア5大学の学生が来校した。ホールにて全体セレモニーを行い本校生徒が学校紹介や歓迎のあいさつを行った。その後、教室にて大学ごとに各国の紹介のプレゼンテーションが行われた。午後にはアジア研究の生徒と小グループでの交流活動を行なった。



●予選通過グループの研究発表

「O脚について」	「効率的なシャウト効果の使い方」
「身長を伸ばすためには」	「炭酸飲料の身体への影響」
「スポーツができる人は勉強もできる？」	「スポーツをどのようにお金に換えるか」

●高校3年生の進路 (大学 81% 短期大学 5% 専門学校 12% 就職 2%)



スポーツ系	順天堂大、玉川大、帝京大、日本女子体育大、東京女子体育大、了徳寺大 など
文系	青山学院大、東洋大、成蹊大、武蔵大、國學院大、東京女子大、清泉女子大、延世大学校(韓国)、立正大、文京学院大 など
理系	芝浦工大、順天堂大(看護)、東京保健医療大、帝京科学大、十文字学園大(健康栄養) さいたま市立高等看護専門、日本体育大学医療専門学校 など
就職	防衛省 陸上自衛隊

2. 知識教養を高める講座と研修

- 「スポ学講座」：スポーツ科学コース高1・2年の生徒対を対象とした課外講座で、大学の先生等の専門家を講師として、高校レベルを超えた学びを展開する。

高1	「筋の構造と筋の働きについて」 併設大理学療法学科の協力
	「テーピング講座」 了徳寺大学の協力
	「ひとの足について」 併設大理学療法学科の協力
	「プロトレーナーの仕事」 稲垣宗員氏による実技指導
高2	「生理心理学」 併設大心理学学科の協力
	「からだの仕組みと理学療法士の仕事」 併設大理学療法学科の協力
	「膝のテーピング 理論と実技」 併設大理学療法学科の協力

※平成29年度は 上記に加え 味の素主催「暑さに負けぬ体づくり」、ファイテン「チタンとテーピング」など、企業の方に来ていただき、特別講座を実施。



- 大学見学：日本体育大学、日本大学スポーツ科学部を見学に行き、大学でのスポーツの学びについて、レクチャーしていただきました。(平成30年度は、早稲田大学スポーツ科学部を見学予定。)

3. 「スポーツ・ラボ室」の設置

ラボ室のテーマは「医療とスポーツをつなぐ」 プロトレーナー監修のもと、効果的なラボ室へ!



文京学院大学理学療法学科のトレーナーサークル、SPOLECも協力しています。

